

## 第 12 回 第 5 期武蔵野市廃棄物に関する市民会議要録

- 【日 時】 平成 28 年 7 月 26 日（火） 午後 7 時 05 分～ 8 時 57 分
- 【場 所】 武蔵野クリーンセンター 3 階見学者ホール
- 【出席委員】 阿部迪子 石川洋一 岡内歩美 加藤慎次郎 迫田洋平  
（敬称略） 田口 誠 中里陽一 西上原節子 能勢方子 山谷修作
- 【事務局】 齋藤課長 和地クリーンセンター所長 他
- 【欠 席】 花俣延博 狩野耕一郎 竹下 登 古川浩二 木村 浩
- 【配布資料】
- 資 料 1 武蔵野市のごみ・資源物排出量の推移
  - 資 料 2 平成 27 年度 一般廃棄物処理基本計画 事業取組
  - 資 料 3 総括的な課題の整理 事業の拡充に向けたあり方・仕組みを考えるにあたっての大枠の整理
  - 資 料 4 ごみ収集の在り方等検討委員会の今後のスケジュール案

≪会議に先立ち、当会議の委員任期延長について、また開催が遅延した理由について、事務局より説明を行った。≫

### 1 開会

#### 【委員長】

これから、第 12 回武蔵野市廃棄物に関する市民会議を開催する。

### 2 議題

#### 【委員長】

議題（1）「平成 27 年度の取組の実施状況報告と平成 28 年度の取組」について事務局の説明を求む。

≪事務局より 資料 1「平成 27 年度 一般廃棄物処理基本計画 事業取組」、資料 2「平成 27 年度 一般廃棄物処理基本計画 事業取組」の内容について、説明を行った。≫

#### 【委員長】

ご意見があれば承りたい。

**【A委員】**

資料2の基本施策4施策(1)「②緊急対応業務等委託化」の事業概要に書かれているミカレット点検とはなにか。

**【事務局】**

各駅(吉祥寺駅、三鷹駅、武蔵境駅)、および一部の公園に設置されている公衆トイレのことを武蔵野市ではミカレットと呼んでいる。“美化”と“トイレット”を掛け合わせ、このような名称にしている。

**【B委員】**

資料2の基本施策1施策(1)「②環境部メールマガジン等による情報提供」だが、平成27年度をもって休止し今後検討するとなっているが、あまり効果がなく、今後もっと改良しようということで、一時休止となったということなのか。私も見ていて、情報をただ羅列しているだけでつまらないなと思ったのだが、どういう事なのか。

資料2の基本施策2施策(2)「⑥不適正処理や不法投棄について～」で不法投棄に関する言及があったが、そんなに不法投棄というものが武蔵野市内で多くて大変なのか。

資料2の基本施策3施策(3)「①副読本をごみや環境問題に関する社会情勢の変化に合わせて改訂」について、ごみの副読本を減量企画係主体となって子供たち向けに作成していると思うが、平成23年度に作成したきりで、いつも見直しを検討するという事で終わっていると思う。今年度は社会状況に合わせて、またクリーンセンターも新しくなるということもあり、必ず見直しを考えてもらうという方向性を打ち出していきたいと思う。

この3点について伺いたい。

**【事務局】**

メールマガジンについては、実態として登録者が伸び悩んでいたことが1点。もう1点として、今SNSなどの通信手段がある中で、メールマガジンをじっくり読む方があまりいないのではないかと思われることがある。そのため、登録者数の伸び悩みと併せて、市として今後どういう形で情報を発信していくか、より効果的な手法は何かというところを考えなければならないということで、平成27年度で休止することにした。情報発信に関して、きちんとした手法を考えてその中で工夫をしていきたい。

緊急対応センター業務の不法投棄について、地域的にはいわゆる不法投棄の件数自体はそれほど多くないと思っている。ただ共同住宅のごみ置き場に住民ではない人間が勝手にごみを投げ入れる、自分の敷地内に変なものが置かれている、などという相談は、1日に3件ぐらいある。緊急対応センターが現場を見にいき、投棄されている者に名前の書かれた封筒が入っているなど排出者が分かる物に関しては排出者に連絡をし、引き取りに来て

もらっている。排出者がわからず敷地の中に勝手にものが置かれているものに関しては、申し訳ないが、所有者の責任なので処分をお願いしている。もしも頻繁に、また量も多く投棄されるようであれば、不法投棄防止看板の貸し出しを行い掲示をするという取り組みをしている。

副読本の話だが、確かに以前からB委員から環境啓発における副読本の重要性をご指摘いただいている。この間、何もしてないということではなく、色々な環境啓発教材の研究をしている。身近なところで言うと、夏休みごみ探検隊という事業用にハンドブックというものを作っていて、そういったものも毎年担当者がこういう言葉づかいで分かるのだろうか、と頭を悩ませながら改定をしている。まずは小さな事業のテキスト作成といったところから検討を重ね、そういった経験をふまえて分かりやすいものにしていきたいと思っている。副読本については常に念頭に置いているつもりだが、なかなか「ごみトコトン減らし読本」のような副読本を全面的に改定する段階にはなっていない。作っても、市側の独りよがりになってはまずいと思っている。表現の仕方などもハンドブックでテスト的にやりながら研究している。もう少し、お時間をいただければと思っている。

#### 【委員長】

他にご意見あるか。もしなければ、次の議題に移りたい。

それでは、次に議題（２）「武蔵野市ごみ収集の在り方等検討委員会の検討状況の報告」について事務局より説明を求む。

#### 【事務局】

当会議の委員の大半の方が「ごみ収集のあり方等検討委員会」の委員を兼ねておられるので、資料3についてはすでにご存じの方が多いと思われるが、あり方等検討委員会の直近の会議で作成・配布をさせていただいたものである。同検討委員会の現状であるが、6月に「総括的な課題の整理」ということで、委員会としてどのように検討すべき課題があるのかという課題の抽出を行い、各委員からご意見を伺った。今後もう1回、各委員のご意見をいただく場を設ける予定であるので、ここに出てきているご意見が全てということではない。この資料をたたき台にもう一度、委員の皆様からご意見をいただく予定である。《事務局より、資料3「総括的な課題の整理 事業の拡充に向けたあり方・仕組みを考えるにあたっての大枠の整理」の説明を行った。》

#### 【事務局】

本来であれば、本資料に記載のある各委員のご意見をすべてご紹介させていただきたいところであるが、時間の関係もあるので「検討すべき課題」として一括りでご説明させていただいた。「ごみ収集のあり方等検討委員会」には当会議の副委員長をはじめ多くの委員にご参加いただいているが、今の説明の補足的な意味合いとして副委員長から一言いただ

ければと思う。

#### 【副委員長】

事務局の方で各事業の 카테고리を設定し、その上で、各委員の方々に個別に意見をいただき、事務局でもう一度いただいたご意見を 카테고리ごとに分けて課題を抽出した。非常に項目も多く、まだ全て出来ておらず、次回の検討委員会で残り半分を検討するという状況である。今後、もう一度カテゴライズしていただいた課題について具体的な答えを書いていきたいという状況である。その他は事務局よりご説明いただいたとおりで、特に付け加えることはない。

#### 【委員長】

それでは委員の皆様からご意見を伺いたいと思う。と言っても、ほとんどの方が「在り方等検討委員会」に出席されており、出席されていない方というのは非常に少ない。C委員と私とD委員。まず出席されていない委員からご意見を伺うということにさせていただきたい。それではC委員からお願いしたい。

#### 【C委員】

いろいろ課題が出ているということだが、これからの「在り方等検討委員会」の進め方についてスケジュールを見ると「中間とりまとめ案」というのが9月ごろに出るということになっている。具体的に出ている課題、例えば集団回収について拡大か、縮小か、そのどちらをとるのかという問題などについて、中間とりまとめには出てくるのだろうか？ただ「問題がある」として“拡大”も“縮小”も併記されて出てくるのでは、あまり意味がないと思う。そこら辺をどのように考えているのかお聞きしたい。

#### 【事務局】

答えが明確に出るのものに関しては、方向性という形でお示ししたいと思うが、議論が尽きないものについては、こういう議論があるということで両論併記になるような場合もあると思っている。資料3の構成として、従前であれば行政収集の話が最初であり、その後、集団回収というような順番で並べて説明させていただくというやり方だが、今回の「在り方等検討委員会」の議論では、まず、市民や事業者の方に来ることはやっていただき、それらを踏まえて総合的な取り扱いの中で行政の収集の在り方を考えていく、ということを考えているので、あえて冒頭に集団回収を、その後に事業者が主体となっただく店頭回収等を記載し、その後に行政収集というような並びになっている。従って、基本的には各主体は前向きにどういう取り組みをしていくのか、その中で行政収集というのはどういう風になるべきなのか、というような方向性を示したいと思っている。そういうような意図をもって資料は作成している。

### 【C委員】

極端なことを言えば、紙の行政収集をやめたらどうかというような考え方もあると思うが、例えばそういう基本的な方針のようなものが出されないまま、あまり各論に関する議論ばかりやってもしかたがないと思う。「在り方等検討委員会」の中で、そのような基本的な考え方が、果たして出せるのか。本来であれば「一般廃棄物処理基本計画」を策定する議論の中で、そのことについて議論をするべきであったと個人的には思う。例えば紙をどうするのかという基本的な考え方についてどこまで出せるのか。具体策としての集団回収、行政回収、自主回収などについても優先順位があると思う。基本的な考え方がない、なかなか具体的な実行計画が展開されていかないのではないかと。

### 【事務局】

検討している段階のものを、「こうです」という風な言い方はしづらい所があるが、まず一つ言えることは、集団回収にしる、店頭回収にしる、市民なり事業者の方の取り組みに関しては、拡充していく方向だろうとは思っている。それらの活動を踏まえて、行政収集の分別の在り方や頻度、市民の利便性や行政のコストという部分を総合的に見て方向性を出していく。そういう意味で言うと、コストの問題や市民の利便性については、ある段階で突き詰めて考えなければならないが、その場合、収集の在り方について委員会で明確に方向性を打ち出していくというやり方もあろうし、両論併記をして市民に訴えかけるというやり方もあると思っている。当委員会にしても「在り方等検討委員会」にしても、基本的にはごみ問題について意識の高い方が参加し、深い議論をしていただいていると思うが、一方でごみ問題について関心のない方をどう動機付けしていくのか、という問題もある。あまり関心のない方への問題提起というのは、「在り方等検討委員会」のひとつの役目であると思っている。ひとつの方向性で固まった部分をお示しできれば良いのだが、そういう部分も踏まえて議論をしていく中で、結果として市はどの方向に行くのか、と深めていくものと思っている。

### 【C委員】

収集回数を見直すということだから、はっきり言えば減らしていくということだと思う。例えば多摩地域は資源化率が高いが、聞いている所ではそういったところであっても、紙の収集は毎週行わず月2回とか、ペットボトルも月2回、稀に1回の所もあったりする。その他の品目についても、毎週収集を行っているところはむしろ例外である。市では、他の自治体の実態を把握しているとは思いますが、私なりに調べてみたところ、資源物の収集について、資源化率が高い所であっても半分くらいの自治体は週1回ではなく、月2回の収集になっている。逆にごみの減量が進んでいる所でも、一方で資源化率は低いけれども収集回収が減っている。私は、やっぱり他の市がそれくらい進んでいるのであれば、武蔵野

市も、基本計画の計画期間である10年間と言わず、3年なり5年なりの間に、少なくとも多摩地域の一般的な収集頻度のレベル、例えば紙やペットボトル、その他のビン、缶だとかも月に2回の収集だと思うが、そのぐらいの頻度を最低でも目指す、という基本的な目標をたて、それに基づきじゃあどうやってそれを実現するのか考える、という進め方をしなければだめだと思う。毎年の排出量を積み重ねで行って、最終的に頻度が減る、という考え方があるのかもしれないが、それでは具体的に収集回数が何回になるのかというのは、今回の中間とりまとめには具体的には出てこないということなのだろうか？

#### 【事務局】

回数の問題については、市民の利便性と行政コストの問題の部分も併記している。その中で「在り方等検討委員会」を通じて、大枠の認識として事務局の方でいろいろと調査をした中で出てきたものとして、収集頻度を減らしてもごみ量が減らないとコスト自体はあまり下がらないだろうということがある。一方で、収集頻度を減らすとごみ量が減るといふ風にも言われている。また一方で市民の利便性としてはどうなんだという意見もある。一つの価値判断として、収集頻度を見直すことにした場合、「在り方等検討委員会」で検討するにあたっては環境負荷の低減と、行政コストの低減に資する収集頻度の見直しというところを旗として掲げている。その旗が果たして有効なのかという部分が、事務方の問題意識としてある。従って、行政コストがあまり下がらないが、収集頻度を減らせるかと言えば、やろうと思えば減らせる話であるが、コストも減らないのに一方で市民の利便性を犠牲にするかたちにならざるを得ない、といった側面がある。従って、この部分についてどのような方向性の設定なり判断をしていくのか、正直、悩ましいところだと思っている。ただ、当初の目標設定自体をどういう風に考えるかという事もあるが、色々な数字や収集の状況を踏まえた場合、そういう状況下で方向性をどうするか、というところは議論していかなければいけないと思っている。また収集頻度の問題を1つのきっかけとして市民に訴えることがごみ減量に繋がるというようなことも多分にあるとは思っている。問題意識としては、その3点の価値観をどう議論していくかということがある。

#### 【委員長】

基本的な考え方としては、民間のルートを最大限活用するという事だと思う。民間の拠点、店頭、拠点には公共機関も入ると思うが、それから新聞販売店の回収、そして一番重要なのが集団回収。そこをきちんと整備していくことだと思う。集団回収を活性化、強化する支援の仕方だが、奨励金というのも重要な手段かと思うが、特に北海道の自治体が行っていることだが、集団回収に出しやすくするという事で、札幌や苫小牧の例では、集団回収を実施する登録団体に回収ボックスを設置してもらうために設置費用の補助を行っている。ただ、武蔵野市では問題になるのが場所。そのようなボックスの設置場所を提供して下さる団体のメンバーがいるかどうか、あるいは町内会で場所を確保でき

るかどうかだと思う。もう一つ、北海道で大きなシェアを持つコンビニチェーンのセイコーマートは資源回収に非常に熱心で、ほぼ全店舗に古紙も含めた資源物の回収ボックスを設置しているので何かの参考になるかもしれない。

分別ガイドブックにおける“ざつがみ”の扱いであるが、現在は古紙にひと括りにしていることと思うが、“ざつがみ”に1ページを割いて詳しく説明することが、資源化には非常に効果がある。“ざつがみ”の呼称は使わず、“ミックスペーパー”という呼称でインパクトのあるものにすることも一つの方法。主要古紙、牛乳パックなどを1ページとして、それと同等のスペースを“ミックスペーパー”のみに割り、どういう物が“ミックスペーパー”か、禁忌品にはどういうものがあるか、などについて詳しく説明をする。コストもかからないので、是非考えていただきたい。

ごみ問題に無関心な層の話が出たが、どこの自治体にもそのような人たちはおり、環境やごみへの関心の二極化は顕著になってきている。無関心な人たちへのアプローチの仕方は非常に難しい。だから先述した分別ガイドブックの工夫や、無関心層にも興味を持ってもらえるような経済的なインセンティブを利用したプログラムの活用が重要であると思う。例えば、牛乳パックを拠点回収に出す際には、パックを切ったり洗ったりと、手間がかかる。これを何枚かまとめて持って来れば何らかの環境グッズがもらえる、といった仕掛けを店舗の協力を得ながら工夫するといった方法も有るかと思う。

D委員、ご意見があれば

#### 【D委員】

本日の会議資料に目を通して見たが、昨年度のごみ市民会議に出ていたのと同様な意見がここにも記載されおり、ごみの問題については減量と収集とを一体に考えていかなければならない問題なのだと改めて思った。一つ気になったのが、先ほど他の委員からもご指摘があったが、色々検討していく中で、ある程度の目安がないとうまくいかないのではないかと思った。我々は百貨店という企業で、ごみを出す際に“燃やせるごみ”は武蔵野市に出しているが、それ以外のごみは民間の処理業者の方で処理をしてもらっている。段ボールなど一部のものを除いて、リサイクルできるものと言っても、ほとんど費用を払って処理している。我々が社内での分別の徹底に努めている理由は、それが環境負荷の低減につながるということと、武蔵野市で働いている以上、分別をちゃんとやることで武蔵野市の負荷が軽くなるのであれば、分別をやりましょうという事を合言葉に社内で行っている。職員はほとんど市外に住んでいるが、企業としては武蔵野市民なので、武蔵野市に負荷をかけないということが第一の目標である。そういった意味ではみんながわかり易いキーワードがあった方が良いのではないかと思った。あと、集団回収の話で、確か「ごみ市民会議」の中では、高齢者が足が悪くて集団回収の集積所まで資源物を持って行けない、だから、逆に市の行政収集が減ってしまうとそういった人は苦しい、という話があったかと思う。この様なケースでそれを補うための個人あるいは地域に対してのインセンティブ、

そういった仕掛けを作らないで、ただ「行政の回収が無くなったので、集団回収か店頭回収に出してください」では済まされないのではないかと思う。

**【委員長】**

それでは「在り方等検討委員会」に参加されている委員の方で、何か発言をされたい方がおられれば、伺いたいと思う。

**【A委員】**

今回参考資料として配布された「季刊むさしの」のごみ特集を2、3日前にすでに読んだ。これには“ざつがみ”の分別についても割合詳しい記載があるが、委員長の先ほどのご提案というのは、古紙の説明についてこれよりもさらに細かいもの、というイメージであるのだろうか

**【委員長】**

その通り。分別について、もっとページを割いたものである。それと、こういった情報誌というのは、ごみに関心を示さない人はなかなか目を通してくれない。分別ガイドブックでもよっぽどインパクトのある形にしないと、良くは見てくれない。そういう意味で“ざつがみ”から“ミックスペーパー”に呼称を変えることなども必要になってくる。

という事で、本日委員の皆さんより色々のご意見をいただいた。本日いただいたご意見も参考にさせていただきながら、引き続き「ごみ収集の在り方等検討委員会」でご検討をいただければ、と思う。

それでは議題（3）「その他」として今後のスケジュールについて、事務局からの説明を求む。

**【事務局】**

資料4として「ごみ収集の在り方等検討委員会」の今後のスケジュールをお示した。会議冒頭にご説明させていただいたが、当初は7、8月に報告書を出す予定でスケジュールを考えていたが、課題の検討についてももう少し時間が必要な事から、年内に一定の取りまとめを行い、報告を1月に挙げる形でスケジュール見直し、検討委員会での了承をいただいた。それを受け、中間取りまとめについては概ね9月に一定の考え方をお示したいと思っている。その中間取りまとめについて、当「ごみ市民会議」にご報告させていただき、ご意見をいただきたいと思います。会議の日程等については改めてご連絡させていただきたい。

**【委員長】**

今のスケジュール案の事務局説明について、質問等あるか？



それでは、引き続き「ごみ収集の在り方等検討委員会」でのご審議をお願いしたい。  
本日の議事はすべて終了した。以上をもって本日の会議を閉会とする。

以上